

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

②施設・事業所情報

名称：ピノキオ幼児舎茅ヶ崎保育園	種別：認可保育所	
代表者氏名：中山 祥子	定員（利用人数）： 58名	
所在地：〒253-0054 茅ヶ崎市東海岸南2-6-9 共生ビル2階		
TEL：0467-57-6151	ホームページ：https://www.dream-w.net/	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：2018年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：ドリームワールド株式会社		
職員数	常勤職員： 16名	非常勤職員 5名
専門職員	保育士 13名	
	保育支援員 2名	
	栄養士 3名	
施設・設備の概要	保育室6	事務室

③理念・基本方針

<保育理念>

ひとりひとりに、のびやか保育
愛情をもって愛情を育てる。
創造力をもって創造力を育成する。

<5つのお約束>

- ・ピノキオのテーマは「のびやか保育」です。
- ・ピノキオは、保育はクリエイティブだと考えています。
- ・ピノキオは、お子さまひとりひとりを見つめ、大切にします。
- ・ピノキオは、お母さんお父さんとともに進みます。
- ・ピノキオは、「学び」を育てます。

④施設・事業所の特徴的な取組

○天気の良い日は、近隣の14～15か所の公園に散歩に出掛けている。子どもたちの希望を聴いて、どこに行くかを決めて戸外遊びをしているが、海が近いため、公園にいる時の津波の発生を想定し、それぞれの公園からの避難場所を決め、「津波時避難経路・避難場所」のマップを手作りしている。保育士は地震や津波発生時の避難場所が決めているので、安心して散歩に出掛けている。保護者にも避難場所を伝えている。

○第三者の機関による利用者アンケートを毎年定期的に行っている。利用者アンケートは開園時より実施し、社内他園との比較や前年度との比較などを行い、分析結果を職員全体で共有している。アンケート結果は報告書としてまとめ、運営委員会で保護者に公表している。また、利用者アンケートの結果は、内容を分析し、改善内容をまとめ、社内4園の園長会で報告し、様々な意見を聴いて、より良い保育園づくりにつなげている。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年9月1日（契約日）～ 2023年2月8日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（年度）

⑥総評

- ◇事業所の特色や努力、工夫していること、事業所が課題と考えていること等
- ドリームワールド株式会社は、ピノコーポレーションのフランチャイズとして、県内で4園の保育所を運営している。ピノキオ幼児舎茅ヶ崎保育園は、開設5年目の保育所で、「のびやか保育」の理念に沿って、0～5歳児58名の子どもたちの保育にあたっている。
 - 保育士は、性差で決めつけず、個性を大切に、子どもたち一人ひとりの思いや発想を大事している。子ども同士にトラブルが生じた時には、お互いの話をよく聴き、年齢に応じた関わりを行っている。特に、年中や年長の子どもの場合は、周りの子どもたちの意見を聞いたり、お互いの気持ちを伝え合ったり、自分たちで解決ができるようにしている。
 - それぞれのクラスで、子どもたちの手の届く場所にいろいろな玩具を置き、いつでも自由に手に取り、遊ぶことができるようにしている。園の周辺には自然が多く、公園があり、天気の良い日は戸外に出かけ、雨天の日は制作やリトミック、運動遊びなどを取り入れている。公園には異年齢の組み合わせで出かけ、いつもと違う関わりが持てるようにしている。行事の際には、年中・年長クラスでは子どもたちが話し合いを行って内容を決めている。
 - 0歳児は、同じ保育士が保育できるように配慮し、情緒の安定を図りながら、愛着関係を築いている。オムツ交換は決められたスペースで「お尻きれいにしようね」「気持ちいいね」など、子どもの気持ちを代弁するよう声掛けを行っている。離乳食は、未食の食材など、保護者と栄養士が直接話す機会を作り、相談できるようにしている。ハイハイ、つかまり立ち、歩行などで自由に探索活動が十分に行えるよう、室内の整理整頓を心がけている。
 - 1、2歳児は、日々の発達や行動を保育士間で共有し、子どもたちに対して同じ認識のもとで、同じ対応ができるよう心がけている。また、「じぶんでやりたい」という気持ちの芽生えを大切にしている。自分でできたときの充実感や満足感を味わい、もっとやりたいという気持ちを持てるよう支援している。友だちへの興味関心など、状況に合わせて言葉を代弁し、気持ちを伝えたり、ごっこ遊びの中で「かして」「どうぞ」などのやりとりの仲立ちを行っている。
 - 3歳児と4歳児は、オープンな環境で過ごしているため、年下の子どもに優しくしたり、年上の子どもに教えられ、チャレンジするなど、社会性が身につくようになっている。思いやりの気持ちや、自己肯定感を育む機会を得ている。ケンカなどトラブルの際は、前後を把握し、全体を見て対応するようにしている。5歳児は、日々の活動の内容を、子どもたちが話し合いで決めている。子どもたちが意見を出し合う中で、一人ひとりの気持ちや意見を、皆で考えて進められるよう保育士が関わっている。
 - 子どもの登園時には、必ず一人ひとりの検温と視診を行っている。視診は保護者のいる間に行い、気になることがある場合は、その場で確認するようにしている。また、睡眠チェック表を用いて、0歳児は5分毎、1、2歳児は10分毎、3～5歳児は30分毎に、呼吸や顔色、体位などの状況を確認している。午睡の時間を利用し、職員が事例などでSIDS（乳幼児突然死症候群）の勉強を行っている。
 - 年度の初めに年間食育計画を作成し、各クラスの月間指導計画に反映している。コロナ禍により食育活動に制限はあるが、園長や本部と相談のもと、感染症対策をし、できる範囲の活動を行っている。栄養士の直接指導の下、子どもたちが上新粉を使って

お月見団子を作って飾っている。今年度は幼児クラスは買い物に行き、5歳児はかき氷作り、非常用の防災食のご飯作りと試食を行っている。食育だよりを毎月発行して、季節の行事や旬の食事など、食に関する情報を提供している。食事については、無理強いや、絶対に食べなければいけないという指導はしていない。全部食べられることの喜びを味わったり、自信を持つことができるよう、子どもたち個々の状況により、食事量を調整した盛り付けを行っている。

○常勤及び非常勤の職員全員が、年度初めに保育目標とマナー目標を立てている。園長との個人面談は、5、10、2月の年3回行い、具体的な取り組みの状況などの話し合いを行っている。職員は「自己評価シート」を用いて、9月と1月に自己評価に取り組んでいる。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

開園して5年目となり、今回第三者評価を受審させていただきました。

開園から現在までの保育園の歩みを振り返り、私たちの保育の中で今後も継続すべき点、そして改善点を明確にすることができました。また、コロナ禍を経て世の中が大きく変化している事を痛感する現状の中で、子どもたちの未来、保育園としての未来に向けて予測し、私たちのあるべき姿等を職員同士で話し合うとても良き機会となりました。今回の受審で見えてきた課題にこれから真摯に向き合って参りたいと思います。

調査員の方が最初に「第三者評価は、保育園が今よりも良い方向に向かっていくための機会としてお手伝いをさせていただくもの」といった趣旨をお話してくださいました。初めての第三者評価で不安もありましたが、その言葉に励まされ、現状をありのままに見て頂き、助言をいただきました事を心から感謝申し上げます。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり